

## 「チームとしての学校」づくり

深谷はばたき特別支援学校  
教諭 野口 玲行

### 1 はじめに

本校は平成 23 年 4 月に、知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校として開校しました。校名の「はばたき」には校舎北側を流れる荒川が有名な白鳥飛来地であるという郷土性ととも、児童生徒の一人一人が豊かな心と逞しさを持ち、社会に巣立って行って欲しいという願いが込められています。以下に、自立と社会参加を目指し、より良い教育活動を展開すべく「チームとしての学校」の力を高めるため、教務主任として関わった取り組みのいくつかを記します。

### 2 主な取り組みの概要

#### (1) 活性化

- ・ OJT を意識した教員のかかわり・・・様々な経験、年齢層で構成される教職員集団がともに教育活動を行う中で学びあう姿勢を持てるよう啓発するとともに、研究部を中心とした計画的な研修や初任者研修に力を入れています。
- ・ 企画委員会を中心とした組織連携・・・企画委員会を中心に各学部、分掌等の取り組みを掌握し、全体の調整・連携を図っています。各提案事項の早期把握、調整点の整理、課題の明確化を行い、学校行事を始め教育活動が滞りなく進められるよう努めています。

#### (2) 効率化

- ・ 会議・打ち合わせ等の効率化・・・会議、打ち合わせがスムーズに進行できるよう、議案の早期提出、資料の事前配布を周知し実行しています。また、毎日の朝会に校内ホームページを活用することで、時間短縮、連絡事項の徹底を図っています。
- ・ 文書管理等・・・ファイルホルダーの整備を基本に、文書整理を進め必要な文書がすぐに見つけられるように努めています。同時に、必要に応じ書式・記載方法の統一を図り、文書事務の効率化を図っています。また、校内サーバを活用した各種文書、情報の整備も進めているところであり、指導要録についても電算化しています。

#### (3) 情報共有・指導の連携

- ・ 継続した指導・支援・・・個に応じた適切な指導・支援を継続して行うため、同一観点で客観的な実態把握が行えるよう、共通した複数のアセスメントを実施しています。それに基づき作成する教育支援プランの活用、引継ぎ、見直し等も関係する教職員の間で充分行われるように周知しています。
- ・ サポート手帳の活用・・・埼玉県が作成した「サポート手帳」を在校生全員が所有し活用してもらうことで、校内での指導・支援のみならず、福祉、医療等他機関とも連携し、ライフステージに応じた支援が受けられるように取り組んでいます。また、早期支援の充実のため「幼児発達支援教育プロジェクト担当会」を組織して活動しています。

### 3 おわりに

開校 7 年目、学校としての基礎作りの時期から発展の時期へという意識を明確にし教育活動の充実を目指しています。学習指導要領の改訂等教育を取り巻く環境が大きく変わる中、「チームはばたき」として教育力を発揮できるよう、管理職のリーダーシップのもと、学校づくりに努めていきたいと思ひます。